

(仮称)第3期西東京市子ども・若者ワイワイプラン(素案)に係る市民説明会等の報告について

1 市民説明会

(1) 実施日・場所

- ①令和6年12月17日 アスタセンターコート
- ②令和6年12月21日 住吉会館

(2) 実施方法

オープンハウス形式

(3) お寄せいただいた主な声

子どものこと

- ・子どもの遊び場を増やしてあげてほしい。
- ・最近近所で遊んでいる子どもの声がしなくなったが、子どもの声が聞こえている方が明るくなって良い。
- ・子どもが公園などの外で遊ぶ時の防犯面が気になる。
- ・学校以外の居場所での経験が子どもには大切なことだと感じる。
- ・子ども会議に参加して何かをしたいと思っている小中高校生が、大学生と一緒に地域での活動ができると次の代にうまく引き継げると思う。子ども・若者自身も切れ目なく交流できると良い。

子育てのこと

- ・娘(母親)が子育てでいっぱいいっぱいになってしまったので、産後ケアの期間がもう少し長いと良い。
- ・公民館のような場所に赤ちゃんと一緒に行って、人の話を聞いたり、話ができると良い。
- ・一人ぼっちだと感じている保護者の割合を0%を目指すのは無理ではないか。1割程度はいると思う。また、現状は約30%とあるが、もっと多いと感じる。
- ・貧困家庭やヤングケアラーが増えていると聞くので、何か対策をしてあげてほしい。

地域における子育てのこと

- ・おじいちゃん、おばあちゃん世代は何かやりたいと思っている人が多いので、子育て支援にもっと活用した方が良いと思う。
- ・子ども食堂のような地域での活動は、継続することは難しいが大事であると思う。

2 キッズコメント 意見交換会

(1) 実施概要

実施場所	日時	参加人数
田無柳沢児童センター	令和6年11月27日（水） 午後4時から午後4時30分まで	7人（小学4年生5人、小学5年生1人、小学6年生1人）
下保谷児童センター	令和6年12月11日（水） 午後4時から午後4時40分まで	14人（小学生9人、中学2年生5人）
田無児童館	令和6年12月23日（月） 午後4時から午後4時45分まで	18人（小学生16人、中学2年生2人）

(2) 主な子どもの声

居場所のこと

- ・いつでも行くことができ、好きなことができる場所
- ・安心できる場所
- ・話せる大人や見守ってくれている大人がいる場所

児童館のこと

- ・特に用事がなくても児童センターに来て、友だちと一緒にボードゲームをしながら話ができるのは楽しい。
- ・下保谷児童センターのような場所が他の地区にもあったら良い。家から遠いためになかなか来れない友だちがいる。
- ・児童館は小学生が多いので、中学生になると行きづらく感じる。
- ・中学生になると学校の終わる時間が遅くなったり、勉強に時間を割いたりするようになるので、児童館には行かない人が多い印象がある。

意見表明・話し合いのこと

- ・普段から話し合いはあまりしていない。
理由：話そうとしない雰囲気、人の話を聞かない友だちもいる、つまらない、面倒くさい、遊ぶ方が優先
- ・学級会で行事の遊びを話し合うことはある。
- ・学校の先生に意見を言える時もあるけど、高学年になると言いにくいと感じる子もいる。直接言う以外の方法があると意見が言いやすいと感じる。
- ・市から意見を聞かれるということをあまり考えたことが無いが、聞かれるのであれば、アンケート形式で、タブレットで答えられると良い。紙に書くのは面倒に感じる。
- ・子ども会議は、友だちが参加していたので知っている。子どもが市のことに参加できると聞いたが、自分の意見を言えるほど、まちや政治のことを考えていないので申し込まなかった。自分は、自分から発言するのが苦手で、アイディアはあっても意見として言える人の方が少ないと思う。

3 若者アンケート

(1) 目的

新たに追加する若者に対する取組について、各種調査結果に基づきながら検討した重点的な取組の内容が若者に適した内容になっているかを確認する。

(2) 回答者

59 人（10 代 54.2%、20 代 39.0%、30 代 5.1%、40 代以上 1.7%）

(3) 調査結果

①若者にとって必要だと感じる割合とその理由

◆意見表明の機会の充実 83.1%

- ・実際に声を聞くことでギャップを埋められると思う。
- ・意見を聞いてもらえると知ると、まちのことを考えるようになる。「意見が聞かれて、意見が反映される」をセットにすることが大事だと思う。
- ・自分から発言する人が少ないので場を設ける必要がある。

◆まちづくり活動の機会の充実 91.5%

- ・まちとのかかわりがあると愛着につながると思う。
- ・部活動とコラボすることで大学生と市の両方にメリットがあると思う。
- ・若者を社会資源と捉えもっと活用すべきだと思う。

◆相談支援体制の充実 84.7%

〈必要な理由〉

- ・様々な面で悩みを抱える人がいるのでこの場は大切にしてほしい。
- ・相談する第一歩の勇気がいると思うので、アウトリーチ的な支援が必要だと感じる。

〈あまり必要でない理由〉

- ・若者は友だちや家族の方が悩みを相談しやすいと思う。
- ・ないよりはある方が良いと思う一方で、そこに大きなコストを掛けるよりは、若者に成功体験を増やすことのほうが良いのではないかな。

◆地域行事等の活性化による若者参加の推進 100.0%

- ・参加だけで終わらず、そこから興味があるイベント等につなげて自分を表現できる選択肢を増やしてほしい。

②子育てしやすい社会を目指して、子ども・子育てに関する社会の理解を促進する取組（自由記述）

- ・子どもを持つ親（子育て層）と地域の老若男女がかかわる機会を作ること
- ・疎遠になりがちな子育てを地域でできる土壌となる関係づくり、きっかけ提供。大人も余裕のある社会になってほしい。
- ・一人で悩まないように気軽に交流できる場
- ・子育て広場、親子カフェなどの設置
- ・子育て支援施設を大々的に広告し、人々の目に留ませる
- ・経済的不安の解消のための資格取得の支援
- ・子育て家庭に優遇される制度の紹介
- ・もっと産休や育休を男女問わず取れるようする
- ・医療費の支援など保護者の負担が減るようにする
- ・市の活動や政治に興味がない若者の目にも入るよう若者向け情報誌の発行